

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3272200472		
法人名	社会福祉法人 あま福祉会		
事業所名	グループホーム諏訪苑		
所在地	島根県隠岐郡海士町3964番地 (電話) 08541-2-1273		
評価機関名	NPO しまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年10月23日	評価確定日	平成20年11月20日

【情報提供票より】(2008年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	5人, 非常勤 2人, 常勤換算5、8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,380円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	6人	要介護2	2人			
要介護3	0人	要介護4	1人			
要介護5	0人	要支援2	0人			
年齢	平均	84,9歳	最低	73歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	海士診療所
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスとしての明確な理念を事業計画に具体的に盛り込み、その実践に向けて頑張っている開設5年目のホームである。利用者も職員も顔見知りで安心して利用することができる。地域の祭りに参加するなど利用者の昔からの生活を大事にし地域に出かける機会を作っている。職員育成に力が入れられ、管理者の助言を得ながら職員は日々自己研鑽に努め、利用者の穏やかな生活を支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域とのつきあい」「職員の育成」「運営推進会議を活かした取り組み」はそれぞれに工夫され、できるところから積極的に改善されている。「同業者との交流」は継続して検討されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議で項目ごとに分けて話し合いを行った。できている事、できていない事を確認しながら整理検討し、課題を明確にして取り組んできた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーを増やし、多方面からのより幅広い意見や要望、助言を聞き会議の役割が深まってきている。情報交換をしながら出された意見を運営に役立てている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年3回面談を実施し要望を聞いたり、居室に意見を記入する用紙を設置するなど家族からの意見、要望の聞き取りに力を注いでいる。行事連絡に対する意見やケアに関する要望が出され改善に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町の産業祭に利用者の作品を出展したり祭りなどの地域行事に積極的に参加し交流を図っている。中学生、ボランティアとの交流や、地域の美化活動で空き缶拾いをするなど意識的な取り組みが行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人としての尊厳や権利を損なわずその人らしい援助をしながら、地域の一員として暮らすこと」を明示した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいたケアができるように具体的な目標を掲げ日々の生活の中に活かしている。申し送りや会議などで管理者や職員同士の助言もある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の産業祭に利用者の作品を出展したり、毎月空き缶拾いをするなど交流に努めている。園児や中学生、婦人会との交流や野菜などの差し入れもある。	○	さらに独自の広報活動の工夫を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で項目ごとに話し合い、出来ていること、いないことを整理した。今後取り組むべき内容も確認し出来るところから取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーも新たに増え、より幅広く意見や助言を得ている。事業計画や外部評価結果、今後の課題に対しても的確な意見が出され運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の地域ケア会議に出席し他施設と情報交換しながら、介護全般について相談しあっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月に1回「ファミリー通信」を発行し、写真と共に生活の様子や介護計画などわかりやすく報告し家族に喜ばれている。金銭報告は2ヶ月に1回送付している。	○	さらに便りの発行回数が増えることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室に意見を記入する用紙を置いたり、面談、運営推進会議などで意見の引き出しを行っている。家族から「行事の連絡を早目に」という希望があり改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は法人内異動は行っていない。週1回、法人内での合同での食事会を行い利用者との馴染みの関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は「自己目標管理シート」にそれぞれの目標を立て管理者から助言を得ながら自己研鑽している。理念に沿って具体的な目標を掲げ年間を通して計画的に研修を行っている。	○	職員育成に力を入れられているが、さらに外部研修へも少しでも多くの職員が参加できるような支援を望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周辺に同業の事業所がなく積極的な交流は行われていないが、関係団体の中にグループホームも入り交流をしたらという意見が出ている。	○	実現に向けて尽力されることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学してもらい安心して利用できるようにしている。利用者の状態に柔軟に対応する姿勢がある。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、包丁さばきや味付け、伝統的な料理など、日々利用者から教わっている。利用者の言葉や笑顔から気持ちが通じ合ったと感じることがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ちょっとした言葉や目線、表情などから思いを把握している。居室で一緒に片付けをしながら話を聞いたり興味のある話題を提供しながら思いを聞き出している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に面談を実施し本人や家族の要望を聞き計画に反映させている。地域の人から情報を得ることもあり、課題について職員全員で話し合い計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケース会議を開き介護計画に基づいた実践を行ったか評価している。利用者の日々の記録や家族、本人の要望に応じ随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり毎日看護師が利用者の様子を観察し健康状態を把握している。状態に応じて通院支援や柔軟な外出支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が納得した協力医療機関の医師による受診体制がとられている。毎週1回主治医による定期検診があり、必要時には受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	在宅介護支援センター、医師、家族などと話し合いの場を設け対応している。マニュアルを作成し、ターミナルケアの研修会も計画されている。看取りの事例がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合わせた言葉かけをしたり、他の人の前で傷つけないよう言葉かけに注意している。個人情報の取り扱いマニュアルの作成が計画されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の自主性を尊重しながら対応している。利用者のペースに合わせてゆっくりコミュニケーションをとることで本人らしい生活が送れるようになった人がいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも利用者と職員で当番を決め調理、配膳などを行っている。下膳、テーブルふきなども利用者が自然に行っている。献立は隣接の施設と同じだが、週一回は独自メニューを考え作るようにしている。	○	さらに食事作りに力を入れ、利用者の力を活かせる場面が少しでも増えることを望みたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望の時間に毎日入れるようになってきている。夜間も7時から9時まで可能な体制がとられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作り、縫い物、料理など得意なことを活かしたり、趣味の俳句作りをするなど楽しんで力を発揮してもらっている。季節に応じた外出もあり喜ばれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物、外食など、希望に沿って柔軟に支援をしている。地域活動に缶拾いを計画し戸外へ出る機会を作っている。お大師参りや祭り見学は昔の記憶があり喜ばれている。	○	ドライブに出かけることの好きな利用者のために今までどおりに回数を確保してあげて欲しい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。利用者の様子を見守りながら支援している。地域の方はみな知り合いで、協力してもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回隣接施設と合同避難訓練を実施したり、通報装置の使用訓練を行っている。法人として地域との協力体制ができている。備蓄も確保されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事や水分摂取量を日誌に記録し利用者の状態を把握している。栄養バランスも配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたホールを居心地のいい雰囲気にするために生活ぶりのわかる写真や貼り絵、俳句などの作品を飾り工夫している。利用者はソファやこたつで思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望に合わせて畳、ベットの部屋があり、使い慣れた家具や小物、仏壇、自分で作った作品や家族の写真を飾ったりし、その人らしい雰囲気作りをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。